

1. もし最初の確信を終わりまでしっかり保ちさえすれば、私たちは、キリストにあずかる者となるのです。「きょう、もし御声を聞くならば、御怒りを引き起こしたときのように、心をかたくなにはしてはならない。」とされているからです。(3:14-15)
  - a. すべての神の御約束はキリストにあって私たちに与えられ、キリストを通して分かち合うことができる。ただし、御約束に完全にあずかることができるのは最初の確信を終わりまで持ち続けた者だけである。
  - b. 多くのクリスチャンは最初のうちは燃えて堅く立っていても早く火が消えてしまい神の御約束の完成に入ることができない。
  - c. 最初の確信を保つとは、私たちの信仰が成長しないということではないし、神の理解を深めない、ということでもない。イエス以外に信仰を置くようになることは危険であり、このヘブル人の場合はモーセの律法を守れるかということに確信を置いていた。
  - d. また最初の確信とは初めてイエスを受け入れた時を振り返り、今は好きなように生きて良い、ということでもない。むしろ、初めて霊的に神の御声を聞き応答したように、「きょう」も続けて神の御声を聞きへりくだって従うことである。信仰とは現在形であるべきもので、きのう持っていたからもう必要ない、というものではない。私たちは「きょう」の信仰を持つべきである。
2. 聞いていながら、御怒りを引き起こしたのはだれでしたか。モーセに率いられてエジプトを出た人々の全部ではありませんか。神は四十年の間だれを怒っておられたのですか。罪を犯した人々、しかばねを荒野にさらしたあの人たちをではありませんか。また、わたしの安息にはいらせないと神が誓われたのは、ほかでもない、従おうとしなかった人たちのことではありませんか。(3:16-18)
  - a. 出エジプトの物語では、人々はモーセを通して神に信頼し従う信仰を持ち、エジプトによる束縛と圧制から解放されたにもかかわらず、エジプトを出た後は約束の地に入るために十分な信仰を保つことができなかった。
  - b. エジプトからイスラエルを救うことはできたが、イスラエルからエジプトを取り除くことはできなかった。出エジプトの出来事は悲しい話だが、実際これが罪と信仰の本質である。罪は私たちを束縛し、信仰は自由へと導こうとする。
  - c. 神がエジプトから解放された民は再びエジプトへ戻されたのではなく、彼らの信仰が途絶えたその地で死に絶えた、ということに注目しよう。良い点は神は私たちが信仰によって得たものを取り去ることはない、ということ、悪い点は私たちすべてが神のご計画の完成を見るわけではない、ということである。
  - d. 私たち個人の行動以上にその結果は大きく広がっていく。出エジプトの出来事のように、荒野で数百、数千の民が死ぬこと、そして反抗と罪、不従順が引き起こした不必要な痛み、破壊、不当な行為は神の意図されたことではなかった。
3. それゆえ、彼らが安息にはいれなかったのは、不信仰のためであったことがわかります。(3:19)
  - a. 信じることと信じないこと、罪と従順、を論じることはいのちと死に関わることである。罪が私たちにだます手口は、「イエスの血はすべてを覆ってくださるのだから大丈夫、私たちが『イエス様、愛しています』とさえ言っていれば私たち罪とは向き合わなくて良いのだよ」と信じさせることである。
  - b. 私たちが罪を野放しにし見て見ぬふりをすると、罪は硬化効果を生み、私たちはしだいに正しく見たり聞いたり理解する能力を失い、いずれは不信仰の状態に陥ってしまう。
  - c. きょう、あなたは神の声を聞いていますか？ あなたを罪から救い出し永遠のいのちへと導いてくださった方に従っていますか？ 神が次に開けられるドアに進むための信仰を持っていますか？